

あくまでも自分史として

# 「岳陽」と共に

第 75 号

発行日 2026.05. 15  
編集・発行 井上講四／堂本彰夫  
※連絡先 千901-2225  
沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24  
教育協働研究所  
～岳陽舎～  
(井上講四宅)  
Tel:098-963-9282  
E-mail: gakyou17@outlook.jp

## ○世間の大型連休を傍目に、これからを思索する。

今日(6日)は、いわゆる大型連休の最後の日である！過去の「未回収の伏線を回収する旅」も終わり、世間では大型連休が繰り広げられてきたが、私自身は、ある事情もあり、気持ちの上ではあまり元気がない？相変わらずのイラン情勢の所為でもあるが(もちろん、楽しみにしていた旅が終わったことでもある)、原因は、もう一つあるということである！それについては、今こゝでは触れることはしないが(いずれ分かることではある)、とにかく、憂鬱な日々が続いている！ちなみに、沖縄は、いよいよ梅雨に突入した(奄美が先であったが)。これもまた、その憂鬱に拍車をかけている！

だが、それではいけないということ、自らに言い聞かせなければいけない！それは、やはり、これからのことである！何と言つても、まずは、この「通信」をはじめとする、パソコン上での交流促進であるが、新たな試み(AIを活用した)を、如何に効果的に進めていけるかである！ただし、おそらく分量のせいであろうが、HP用のキヤパが悲鳴？を挙げている？どのように対処すればよいのかまったく分からないが、過去の記事は、かなり破棄しなければならぬであろう！！人生と同じで、ただ単に積み上げて(書き増やして)いけばよいというものではないということである(笑)！それはともかく、それを基盤とした、ズームを用いた「教育協働アカデミー」の今後が、現在、最も気になるのであるが、新たな企画も、コアメンバーの協力で立ち上がるうとして(別途報告済み)果たしてどうなっていくのか？実際の五月晴れは見ることは出来ないかもしれないが、心の中のものが見られれば、それもまたよしということである！

## ○マスコミ、言論界への要望(警鐘?)！

知ってしまったツケか？最近、マスコミ(特にオールドメディア?)や言論界の危うさが気になる!!そう思える原因は、まさにSNS(ネットやYouTube動画)へののめり込みにあるが、政治の世界をはじめ、世界情勢や度重なる事件・事故に関わる情報(事実発信)が、その危うさを示しているということである!!端的に言えば、何を(どこを)、どう信じればよいのかということでもある!!今までは、ただ単に知らなかった(知らされなかった)だけなのか？それとも、新たな段階(それらのベールが剥がされた?)に突入し、数々の矛盾や不正(偏向?)が、それ故に露呈してしまっているのか？その辺のことは、よく分からないが、いわゆるSNSの発達、それらを、良くも悪くも顕在化させていることだけは確かである!!多少逆説的に言えば、読者(知らされる側)にしてみれば、知らなくてもよかつた？否、知らない方がよかつた？ということでもあるが、これからは、絶対にそれではいけないということである!!

そこで、私なりの、マスコミや言論界への要望(警鐘?)であるが、それは、一言で言えば、本来の役割(社会の木鐸)に回帰し、それを愚直に果たすということである(それ!!まさに、これまでのリベラリズム(言論の自由、思想・表現の自由等)の価値を再確認し「最近、無軌道、誤誘導、デマ、捏造が跋扈している?」、「今だけ金だけ自分だけの悪しき風潮を止めなければならない!だが、その道は、やはり、険しい稜線上にある」と言うまでもない!!

## ○保守と革新!まずは、その虚実を見極めることが重要!

そんな中、再び、こんなことを考えてみた!ある意味、一つの世も論議される「保守と革新」についてであるが、今回は、少し趣を違えて述べてみたい!端的に、それは、本来は、その双方は、決して対立的に存在するものではないということである!!政治的なスタンスとしての「保守と革新」という言い方(考え)が、その「対立性」を先鋭化/永続化させてきたとも言えるのであるが、これまでは、その対立性が、言わば「表面(レッテル?)上の対峙」という形で語られてきたのではないかと、いうことである!!だが、果たして、それでよいのであろうか?

と云うのも、現在の諸状況が、ある種の変貌期を迎えており、言わば「これまでとこれからの確執」が、目に見えて激しくなっているように思われるからである!!そして、それは、換言すれば、これまでの実態(実体)が白日の下に晒され、そこにあつた不都合や嘘(隠へい)が、多くの、一般の人々に知れ亘つたということであるが、そこで我々は、我が国の(否、人間社会としての)意味のある伝統(価値)とは何かを、改めて見定めていく必要があるということである!!最近では、それがかなり劣化しているということでもあるが、卑近な例で言うと、「通過儀礼(成人式とか)」、「父性/母性、あるいは「共同体(性)」「一人前」といったもの、そうした伝統(価値)に、どのように対処していけばよいのかの、ある意味待ったなしの選択状況に立たされているということである!!

とにかく、現在、そうした伝統(価値)に関わる「保守」と「革新」の本身と、その質が問われていることは明白な事実である!!大事なものは、その真摯なせめぎ合いだが、その評価を、誰か他人(例えば政治家?)に委ねるだけではない!!そうでなければ、「保守」も「革新」も、その意義は半減する!!単なる「バイの奪い合い」では、いけないということである!!政治的なスタンスは、ある種のプロパガンダあるいは演技?であるので、なかなかその本質は見えてこないが(政党の特性や個人に張られたレッテルが大きく左右する)、本当は、何(どこ)が、どのように対立しているのかを互いが冷静に受け止め合い、その先にある、より良い解決(成果)に向かつていくことが重要なのであるのだが!!(井上)

○失われた30年！その原因と処方箋？

おそらく2度目であろうが、本日(3日)、興味深い(否、大変刺激的な)動画を見た！それは、「2026年の大転換：日本人がやる気を持った元凶(浜崎洋介・施光恒)」というものであったが、『表現者ライテリオン』チャンネル、そこに登壇している二人の言論人(双方とも大学教授)の深い思索と博識に、改めて感服した！ちなみに、この二人の言論については、他の動画でも見ているが(特に、浜崎氏のそれは、ほとんど観ている！驚異的な思考体系の持ち主に見える？)、今回の動画は、これまでの我が国の停滞(元気の無さ→まさに同感である！表面的な賑わいや喧嘩はあるもの？)についてのそれであったので、特に注視して観てみた！語られていることは、ある意味、これまで私が言ってきたことと、ほとんど変わらない(本当か？笑、その論理的、体系的な話し方(資料も含めて)は極めて分かり易く、しかも説得力がある(悔しいけれど、ほぼ脱帽である！これまた笑)！この歳、この立場になって、こんなことを吐露するのも、真に面映ゆいものであるが、新時代の知性？というものを、まささまと見せつけられたように思う(他にも、そうした言論人、知識人はいるであろうか？)。

○憲法記念日！単なる旗日(休日)にしないために!!

今年も、この日(3日)があった(当然であるが)。マスコミ報道等では、相変わらずの「改憲(派)／護憲(派)」の双方の動き(集音等)の紹介があったが、その語り口は、依然として、賛成か反対かの紋切り型(者択)であった？ある意味、それは仕方ないことかもしれないが、もうそのそ、その泥試合？に終止符を打つ時ではないかとも思っている(昨今の動きとは無関係に？それが契機となることは事実だが)！要は、何を、どのように議論しなければならぬか？というところを、まさに本気(本音)で、国民全体が考え、議論することが必要だということである！詳しいことは、これ以上言えないが、ある意味では、そこにある「トラウマとコンプレックス」(それが生み出している「馴れ合い」)を、今、どのように「克服すればよいのか」ということである！平和主義、国民主権、基本的人権の尊重、全くもついで、それが成就するわけではない！それを知り、一人ひとりが、そのために汗水流すことが重要なのである！

・短歌に託して、早突入した梅雨空を眺めつつ〜

・大型連休 今年さらさら 無縁とぞ

　　思いつ 我れの 思案は続く！

・マスコミは それが出来ねば 不必要？

　　だがそれは ある種の稜線上？

・伝統と革新！ 単に対立するものではない！

　　大事なのは その真摯なせめぎ合い？

・失われた30年！ ついこの間までは

　　10年であった！ そこに何があったのだ？

・改憲護憲 今何を、何故議論するのか！

　　その本質が見えねば 空しい記念日？

〈特別コーナー〉菅本彰夫の古代史旅枕(75)

○次に、「建国物語」を見てみる？その5

次に、「垂仁」(第1代)、「景行」(第12代)のことであるが、ここでは、端的に、彼らの「繋がり(血統?)」には、大いなる謎(疑義?)があるというところである！

そこで、まずは、垂仁天皇(『日本書紀』では活目入彦五十瓊敷(ぬりひこ)天皇)であるが、治世には様々な起源伝承がある。先代の崇神天皇、次代の景行天皇と共に纏向遺跡付近に都したと伝えられる天皇であり、考古学上、4世紀前後(3世紀後半から4世紀前半)の大王と推定される。御間城(みまき)天皇(崇神天皇の第二皇子。生母は皇后の御間城姫命(みまきひめ)命。垂仁天皇の娘。兄の豊城入彦命をこえて、24才で皇太子になったとある。最も有名な逸話は、最初の皇后「狭穗姫命」(伯父の「彦坐(ひこ)王」の娘との悲話である)叛乱を起した兄狭穗彦(ひこ)彦に焼死(ホムツワケ)は、成人するまで言葉が出なかった！。その後、先の皇后の遺言で、「丹波道主(たには)王」の娘の「日葉酢媛(ひは)命」(開化天皇の曾孫)を新たな皇后として、「天足彦(あそ)尊」(景行天皇、「倭(やまと)姫命」らを得ている。次に、景行天皇(『日本書紀』での名は大足彦(あそ)代別(あそ)天皇。日本武尊(やマト)尊の父)であるが、纏向遺跡付近に都したと伝えられる最後の天皇であり、考古学上、実在したとすれば、4世紀前期から中期の大王と推定されるが、定かではないとされる。活目天皇(垂仁天皇の第二皇子で、母は日葉酢媛命である。21歳で立太子。父皇が崩御した翌年に即位。即位2年に播磨(はりま)稻日(いな)大郎(おほひら)の姫を皇后。皇后との間には大碓皇子(おほす)皇子、小碓尊(おほす)尊(ヤマト)タケル)ら。その後、美濃国(みの)に行幸。八坂入媛命を妃として稚足彦尊(わか)尊(成務天皇、五百城入彦皇子らを得た。そして、即位12年、九州に親征して熊襲(くま)・土蜘蛛を征伐。即位27年、熊襲が再叛すると、小碓尊を遣わして川上(かわかみ)皇帥(みかみ)を討たせた。即位40年、前もって武内宿禰(たけのみこと)に視察させた東國(あづま)の蝦夷(えみ)平定を、小碓尊改め日本武尊に命じたとある。

以上は、多くはウィキペディアによるものであるが、要は、これらは、物部(ものべ)・多(た)子(こ)、海部(うみべ)、尾張(おわり)等の、各民族の集数融合の投影と考えられる？ちなみに、景行系は、「尾張氏」のそれと考えられる？(つづく) 菅本(菅本) 編集後記 今回は、事前に準備していたので何とかあったが、一昨日(13日)、飛んでもない事態となった！今後(こゝろ)のことが気がかりであるが、最善を尽くすのみである！(井上/菅本)